



## 平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月4日

上場取引所 東

上場会社名 ゼリア新薬工業株式会社  
 コード番号 4559 URL <http://www.zeria.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼COO  
 問合せ先責任者 (役職名) 広報部長  
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月10日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 伊部 充弘  
 (氏名) 菅原 真也

TEL 03-3661-1039

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	47,054	2.8	3,792	13.5	3,766	13.0	3,335	5.5
27年3月期第3四半期	45,782	△2.1	3,340	△44.0	3,333	△45.1	3,160	△30.9

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 3,347百万円 (24.9%) 27年3月期第3四半期 2,679百万円 (△61.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	62.79	—
27年3月期第3四半期	59.50	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第3四半期	119,027	63,384	53.0	1,187.35
27年3月期	96,268	62,570	65.0	1,178.00

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 63,066百万円 27年3月期 62,570百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
28年3月期	—	15.00	—		
28年3月期(予想)				15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	65,000	6.5	4,500	68.0	4,100	48.0	3,300	29.0	62.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
(注)詳細は、添付資料P.3「2.サマリー情報(注記事項)」に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無  
(注)詳細は、添付資料P.3「2.サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期3Q	53,119,190 株	27年3月期	53,119,190 株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	3,792 株	27年3月期	3,355 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期3Q	53,115,709 株	27年3月期3Q	53,116,233 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
5. 補足情報	11
(1) 販売実績	11
(2) 新薬パイプラインの状況	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出や生産に中国経済の減速に伴う影響が強まりつつあるものの、設備投資の増加基調や雇用・所得環境の着実な改善を背景に、全体としては緩やかな回復基調を辿りました。

医薬品業界におきましては、医療用医薬品は、医療費抑制策の一環として後発医薬品の使用が強力に推進されており、またOTC医薬品市場におきましても市場競争の激化が続いており、ともに厳しい環境下で推移いたしました。

このような状況の中、当第3四半期連結累計期間の売上高は、470億54百万円（前年同四半期比2.8%増）となりました。一方、利益につきましては、営業利益は37億92百万円（前年同四半期比13.5%増）、経常利益は37億66百万円（前年同四半期比13.0%増）、さらに親会社株主に帰属する四半期純利益は33億35百万円（前年同四半期比5.5%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

## ①医療用医薬品事業

主力製品である潰瘍性大腸炎治療剤「アサコール®」は、海外においては昨年1月に実施されたスイスフランの対ユーロ為替上限レートの撤廃によるスイスフラン高の影響を受けましたが、国内において順調に売上を拡大いたしました。一方、H<sub>2</sub>受容体拮抗剤「アシノン®」、亜鉛含有胃潰瘍治療剤「プロマック®」などの製品は、後発医薬品の使用促進の影響を受けて苦戦いたしました。なお、機能性ディスペプシア治療剤「アコファイド®」につきましては、市場構築が計画対比遅れる状況となっておりますが、医療機関における疾患及び治療法などの認知度を高めることにより進展を図っております。

これらの結果、当事業の売上高は、253億73百万円（前年同四半期比1.6%増）となりました。

## ②コンシューマーヘルスケア事業

主力製品群である「ヘパリーゼ®群」につきましては、テレビCMなどの広告宣伝活動を積極的に展開した結果、製品認知度がさらに向上し、売上を拡大いたしました。なお、平成27年6月にコンビニエンスストア向けの「ヘパリーゼ®W群」の製品ラインアップ強化のため「ヘパリーゼ®W（ダブル）スパークリング」（炭酸飲料）を、平成27年10月に一般用医薬品の滋養強壯剤「ヘパリーゼ®」シリーズの製品ラインアップ強化のため「ヘパリーゼ®プラスⅡ」を発売いたしました。「コンドロイチン群」につきましては、医薬品としての有効性、安全性、高品質を訴求し、健康食品との違いを明確にした販売活動を行った結果、引き続き圧倒的な市場シェアを堅持いたしました。なお、「コンドロイチンZS錠®」につきましては平成27年10月に錠剤を小型化した製品を発売いたしました。

これらの結果、当事業の売上高は、215億61百万円（前年同四半期比4.3%増）となりました。

## ③その他

保険代理業・不動産賃貸収入などにより、当事業の売上高は1億18百万円（前年同四半期比0.4%減）となりました。

なお、平成27年9月25日にベトナムの医薬品製造販売会社であるPharmaceutical Joint Stock Company of February 3rd（所在地：ベトナム ホーチミン市）の株式49%を取得いたしました。今後同社を通じた事業展開を加速させるとともに、他のアジア地域における拠点設立にも取り組んでまいります。また、当社の100%子会社であるTillotts Pharma AGが平成27年7月16日に、AstraZenecaが販売している炎症性腸疾患（IBD）治療剤「Entocort®」（一般名：ブデソニド）の米国を除く全世界における権利を取得いたしました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は1,190億27百万円となり、前連結会計年度末対比227億59百万円の増加となりました。その内訳は流動資産が407億74百万円で、前連結会計年度末対比49億5百万円の減少、固定資産が782億52百万円で、前連結会計年度末対比276億64百万円の増加となっております。流動資産の増減の主なものは、現金及び預金の減少79億68百万円、受取手形及び売掛金の増加13億38百万円、商品及び製品等のたな卸資産の増加1億67百万円、前渡金の増加等流動資産のその他の増加15億61百万円であります。また、固定資産の増減の主なものは、無形固定資産の増加243億3百万円であります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は556億42百万円となり、前連結会計年度末対比219億45百万円の増加となりました。その内訳は流動負債が495億62百万円で、前連結会計年度末対比276億51百万円の増加、固定負債

が60億80百万円で、前連結会計年度末対比57億6百万円の減少となっております。流動負債の増減の主なものは、短期借入金の増加273億54百万円、賞与引当金の減少5億38百万円、未払費用の増加等流動負債のその他の増加6億40百万円であります。また、固定負債の増減の主なものは、長期借入金の減少57億4百万円でありませ

ず。  
当第3四半期連結会計期間末の純資産は633億84百万円となり、前連結会計年度末対比8億13百万円の増加となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上33億35百万円、前期末及び当中間期の配当の実施15億93百万円、企業結合に関する会計基準等の適用による資本剰余金の減少6億60百万円及び利益剰余金の減少5億1百万円、その他有価証券評価差額金の減少2億14百万円等によるものであります。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は前連結会計年度末と比べ12.0%低下し、53.0%となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、概ね計画通りの進捗となりました。一方、昨年1月のスイスフランの対ユーロ為替上限レートの撤廃に伴い、グループ会社において多額の為替差損が発生しておりましたが、その後の為替相場の変動により為替差損が解消する方向に進んだことで、経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益は業績予想を上回る進捗となりました。しかしながら、為替相場の先行きが不透明なことや今年4月に実施される薬価改定の影響なども考慮し、通期の業績予想につきましては、平成27年10月28日に公表いたしました通期連結業績予想から変更しておりません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

特定子会社の異動には該当しておりませんが、第2四半期連結会計期間より、Pharmaceutical Joint Stock Company of February 3rdの49%の株式を取得し、また実質的な支配関係が認められるため、同社を連結の範囲に含めております。

なお、四半期連結財務諸表の作成にあたり、同社の第2四半期会計期間末日である平成27年6月30日をみなし取得日としており、同社の決算日（12月31日）と連結決算日（3月31日）との差異が3ヶ月を超えないため、同社の平成27年9月30日の貸借対照表を連結するとともに、平成27年7月1日から平成27年9月30日までの3ヶ月間の損益を連結しております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 会計方針の変更

（企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(3)、連結会計基準第44-5項(3)及び事業分離等会計基準第57-4項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、過去の期間のすべてに新たな会計方針

を遡及適用した場合の第1四半期連結会計期間の期首時点の累積的影響額を資本剰余金及び利益剰余金に加減しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首において、のれん12億19百万円、資本剰余金6億60百万円、利益剰余金5億1百万円及び為替換算調整勘定95百万円が減少しております。なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

### 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,012,494	10,043,529
受取手形及び売掛金	16,241,490	17,579,621
商品及び製品	4,387,886	4,418,065
仕掛品	1,322,073	1,142,832
原材料及び貯蔵品	2,479,062	2,795,765
その他	3,255,931	4,817,860
貸倒引当金	△18,230	△22,939
流動資産合計	45,680,709	40,774,733
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	6,818,211	8,225,311
土地	11,579,503	11,816,488
その他（純額）	3,623,631	3,156,853
有形固定資産合計	22,021,346	23,198,653
無形固定資産		
のれん	11,531,290	10,373,160
販売権	26,357	18,970,255
その他	787,058	7,304,574
無形固定資産合計	12,344,707	36,647,991
投資その他の資産		
投資有価証券	9,731,245	11,679,099
退職給付に係る資産	5,400,090	5,832,729
その他	1,134,742	937,489
貸倒引当金	△44,563	△43,410
投資その他の資産合計	16,221,514	18,405,907
固定資産合計	50,587,568	78,252,552
資産合計	96,268,277	119,027,286
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,383,588	2,441,175
短期借入金	11,572,986	38,927,760
未払法人税等	1,147,499	1,254,666
賞与引当金	1,112,509	573,847
返品調整引当金	62,381	77,407
売上割戻引当金	160,750	175,272
その他	5,471,289	6,112,209
流動負債合計	21,911,006	49,562,339
固定負債		
長期借入金	10,636,000	4,931,900
退職給付に係る負債	371,223	507,147
資産除去債務	74,381	74,899
その他	705,048	566,464
固定負債合計	11,786,652	6,080,411
負債合計	33,697,658	55,642,751

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,593,398	6,593,398
資本剰余金	12,716,418	12,055,881
利益剰余金	36,392,073	37,631,930
自己株式	△3,892	△4,629
株主資本合計	55,697,997	56,276,581
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,474,409	1,259,920
為替換算調整勘定	3,994,353	3,999,794
退職給付に係る調整累計額	1,403,858	1,530,479
その他の包括利益累計額合計	6,872,620	6,790,194
非支配株主持分	—	317,759
純資産合計	62,570,618	63,384,535
負債純資産合計	96,268,277	119,027,286



（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自平成26年4月1日 至平成26年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自平成27年4月1日 至平成27年12月31日）
売上高	45,782,474	47,054,536
売上原価	13,922,330	13,531,016
売上総利益	31,860,144	33,523,520
返品調整引当金戻入額	110,726	62,381
返品調整引当金繰入額	128,559	77,407
差引売上総利益	31,842,310	33,508,493
販売費及び一般管理費	28,502,003	29,715,680
営業利益	3,340,307	3,792,813
営業外収益		
受取利息	14,025	14,089
受取配当金	192,339	198,041
その他	84,133	79,296
営業外収益合計	290,497	291,427
営業外費用		
支払利息	159,193	209,322
為替差損	110,150	74,682
その他	28,128	33,962
営業外費用合計	297,472	317,968
経常利益	3,333,333	3,766,272
特別利益		
固定資産売却益	—	1,789
投資有価証券売却益	1,388,513	1,087,295
特別利益合計	1,388,513	1,089,084
特別損失		
固定資産除却損	14,173	7,478
固定資産解体費用	—	4,212
買収調査費用	95,574	—
特別損失合計	109,747	11,691
税金等調整前四半期純利益	4,612,098	4,843,666
法人税等	1,451,938	1,503,224
四半期純利益	3,160,160	3,340,442
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	5,230
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,160,160	3,335,211

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	3,160,160	3,340,442
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△150,007	△214,489
為替換算調整勘定	△407,386	95,139
退職給付に係る調整額	77,032	126,621
その他の包括利益合計	△480,362	7,271
四半期包括利益	2,679,798	3,347,714
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,679,798	3,352,305
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△4,591

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医療用 医薬品事業	コンシュー マーヘルス ケア事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	24,985,839	20,677,180	45,663,020	119,454	45,782,474	—	45,782,474
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	128	128	398,683	398,812	△398,812	—
計	24,985,839	20,677,309	45,663,149	518,137	46,181,286	△398,812	45,782,474
セグメント利益	2,678,063	4,293,662	6,971,725	185,303	7,157,029	△3,816,721	3,340,307

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業及び不動産業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△3,816,721千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	医療用 医薬品事業	コンシュー マーヘルス ケア事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	25,373,787	21,561,815	46,935,602	118,934	47,054,536	—	47,054,536
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	1,260	1,260	401,550	402,811	△402,811	—
計	25,373,787	21,563,075	46,936,863	520,484	47,457,348	△402,811	47,054,536
セグメント利益	2,723,190	4,888,271	7,611,461	181,769	7,793,230	△4,000,417	3,792,813

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業及び不動産業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△4,000,417千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度の末日と比べ、報告セグメントの資産の金額は、「医療用医薬品事業」セグメントにおいて増加しております。これは主に、Tillotts Pharma AGがAstraZenecaが販売している炎症性腸疾患（IBD）治療剤「Entocort」（一般名：ブデソニド）の米国を除く全世界における権利を取得したことにより、無形固定資産が24,717,830千円増加したことによるものであります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 5. 補足情報

## (1) 販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：千円)

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	前年同四半期比 増減(△)率(%)
医療用医薬品事業	25,373,787	1.6
コンシューマーヘルスケア事業	21,561,815	4.3
報告セグメント計	46,935,602	2.8
その他	118,934	△0.4
合 計	47,054,536	2.8

(注) 1.セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2.金額は消費税等抜きで表示しております。

## (2) 新薬パイプラインの状況

## I. 国内開発状況

## 1) 消化器系分野

(平成28年2月4日現在)

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序及び特長	備考
承認申請中	ブデソニド	アストラゼネカ	クローン病	糖質コルチコイド	導入品 予定販売名：ゼンタコート
フェーズⅢ	Z-206/ メサラジン	ゼリア (協和発酵キリン との共同開発)	潰瘍性大腸炎 アサコール®用法用量 追加	pH依存型放出調整剤	自社(Gr)品
フェーズⅡ	Z-360	ゼリア	膵臓癌	ガストリンCCK <sub>2</sub> 受容体拮抗作用	自社品 アジア共同治験
フェーズⅡ	Z-215	ゼリア	酸分泌関連疾患	長時間作用型 プロトンポンプ阻害剤	導入品

## 2) その他の分野

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序及び特長	備考
フェーズⅢ	Z-100	ゼリア	子宮頸癌	免疫調節作用	自社品 アジア共同治験
フェーズⅠb	Z-213/ Ferric carboxymaltose	ゼリア	鉄欠乏性貧血	静注鉄剤	導入品

## II. 海外開発状況

開発段階	開発番号/一般名	開発	適応症	作用機序及び特長	備考
承認申請中 (中国)	Z-206/ メサラジン	ゼリア・Tillotts Pharmaの共同開発	潰瘍性大腸炎 アサコール®	pH依存型放出調整剤	自社(Gr)品
フェーズⅢ (欧州)	Z-338/ アコチアミド	ゼリア	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社品
フェーズⅢ (アジア)	Z-100	ゼリア	子宮頸癌	免疫調節作用	自社品
フェーズⅢ (欧州・カナダ)	TP05/ メサラジン	Tillotts Pharma	潰瘍性大腸炎	OPTICORE DDS技術	自社(Gr)品
フェーズⅢ (欧州・米国)	TP09/ CPP-1X・ スリンダク	Tillotts Pharma (Cancer Prevention Pharmaceuticals との共同開発)	家族性大腸腺腫症	ポリアミン生合成抑制	導入品
フェーズⅡ終了 (北米)	Z-338/ アコチアミド	ゼリア	機能性ディスペプシア	上部消化管運動改善作用	自社品
フェーズⅡ (アジア)	Z-360	ゼリア	膵臓癌	ガストリンCCK <sub>2</sub> 受容体拮抗作用	自社品

自社(Gr)品：自社グループオリジナル品